

除染後圃場における そば栽培・収穫のポイント

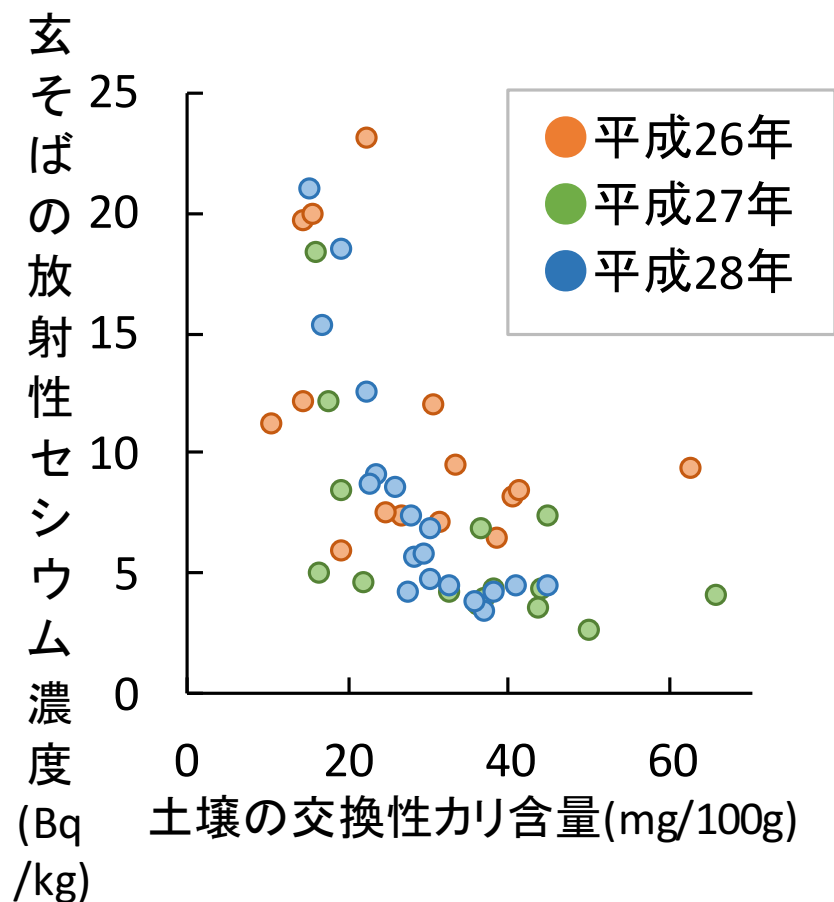
－ 営農再開に向けて－

2017年4月



農研機構東北農業研究センター
農業放射線研究センター

1. 放射性セシウム対策のためのカリ目標値



カリ増施は玄そばの放射性セシウム低減に有効です

原発事故後初めて作付けする圃場の土壌の交換性カリ含量の目標値は

50mg/100gとします

(それ以外の圃場は30mg/100g)

K町の除染圃場での栽培試験の結果
除染後、平成26年に初めて作付け。
同一圃場での3年間の調査結果。

作付け前の土壌の交換性カリ含量を把握した上で カリ施用量を決定します

表：そばの基肥に追加して施用するカリの量
(交換性カリ含量の目標値：50mg/乾土100g以上)

土壌の交換性カリ 含量 (mg/乾土100g)	施用するカリ 成分量 (kg/10a)	実際の施与量	
		60% 塩化カリの場合 (kg/10a)	50% 硫酸カリの場合 (kg/10a)
5	68	114	136
10	60	100	120
15	53	89	106
20	45	75	90
25	38	64	76
30	30	50	60
40	15	25	30
50	0	0	0

作土層を15cm、土の仮比重を1（土の重さは150t/10a）と仮定した場合の試算値
施用するカリ成分量の計算方法：

1. 交換性カリ含量が10mg/乾土100gだった場合、40mg/乾土100g不足
2. 40mg/乾土100gに相当するカリ成分量は60kg/10a

※基肥（窒素、リン酸、カリとも3kg/10a程度）は必ず施用してください

堆肥施用は放射性セシウムの移行低減と 除染圃場の肥沃度向上に有効です

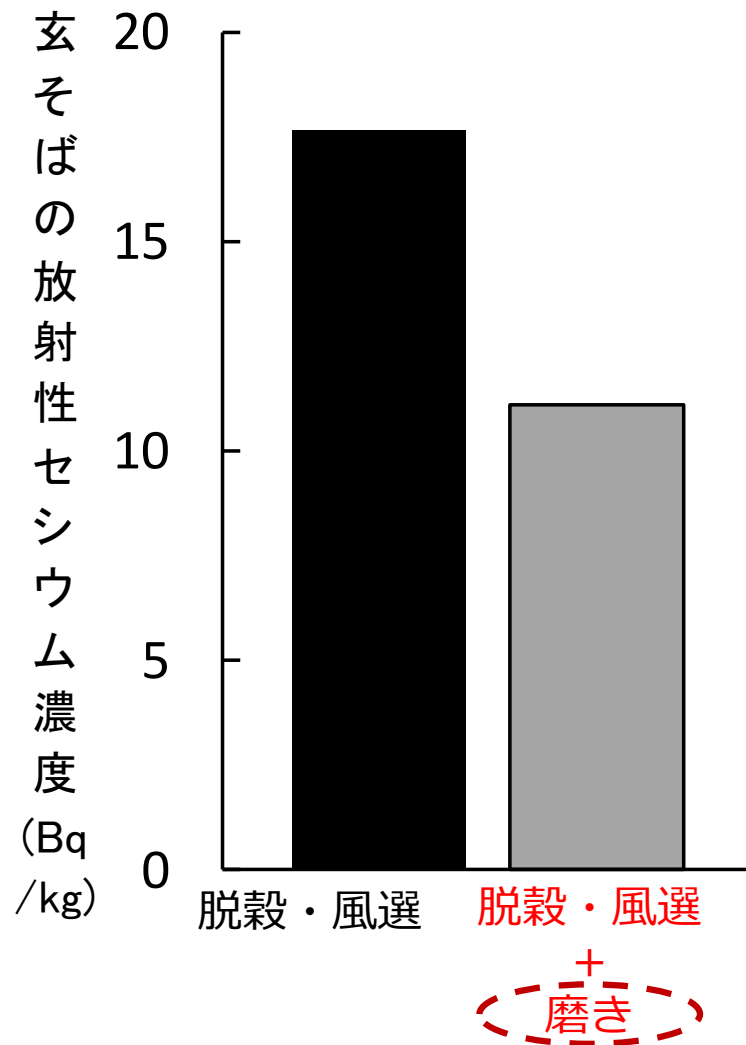
	堆肥区		無施用区
玄そばの放射性セシウム(Bq/kg)	8.7	<	16.8
土壌の硝酸態窒素(mgNO ₃ -N/100g)	0.32	>	0.29
土壌の可給態リン酸(mgP ₂ O ₅ /100g)	23.3	>	19.4
土壌の交換性カリ(mgK ₂ O/100g)	24.0	>	18.6

堆肥区には牛ふん堆肥を1t/10a施用

なお、表土はぎ取り－客土を行ったほ場では、土壌の放射性セシウム濃度に偏りが見られることがあります

堆肥施用時や施肥時には、**深く丁寧に土壌を攪拌**することが、玄そばの放射性セシウムの低減につながります

4. 収穫後の調製作業は重要



磨き作業を行うと土壌粒子等が除かれ、玄そばの放射性セシウム濃度を低減できます

* 倒伏などにより、玄そばに放射性セシウムに汚染された土壌粒子が混入・付着した場合には、特に磨き作業の効果が大きくなります。

ただし、
出荷・販売の際には、
県農林事務所に確認ください。

* 緊急時環境放射線モニタリング検査を行う必要があります。

この資料につきまして
ご不明な点がございましたらお問い合わせください

〒960-2156 福島市荒井原宿南50

農研機構東北農業研究センター
農業放射線研究センター

電話：024-593-5151（代表）

Email：naro-fukushima@affrc.go.jp

担当：久保（クボ）